

みる つくる がたる

千葉県立美術館報

VOL. 15 NO. 4

(通巻59号)

平成元年2月1日発行

編集・発行人 藤川 昶

〒260

千葉市中央港1丁目10番1号

☎0472-42-8311 (代表)



笹岡 了一

「放蕩息子(の)帰宅」

(油彩・一九六〇年)

画面の約八分の一の割合で
下方に大胆に地平線。悠久の

時と地の果てをみるようなエ
ギゾチックな空間を背景に、

二人の人物を中央に左右二等分に配した構図。豪放な筆致で暖色を主体とした明快な色面対比。様々な色は宝石のようには散りばめられて美しく響き合っています。足もとの教会やラクダなども情緒豊かで効果的です。こちらに向って歩いてくるのが息子、ジツと立って待つ父親の後姿。ドラマティックな人間の出会いを内質まで凝視する描写力。卓抜で骨太の構成力と繊細な情緒に裏打ちされた笹岡了一の代表作の一つです。旧・新約聖書に題材を求めた一群の作品中、このルカ福音書一主題の「放蕩息子の帰宅」は、笹岡が好んでくりかえし描いたテーマです。笹岡は、かつて中国での従軍体験中、終戦時旧満州でソ連軍の捕虜となったが、戦友数名と脱出し、大陸、朝鮮の荒野を彷徨しながら帰国したそうです。この放蕩息子の足どりに彼自身がオーバーラップしているのかもしれない。

自らは具象作家として独自の世界を築きましたが、他の抽象やシュールレアリスム等にも理解を示し、抱合力豊かな、リベラルな芸術家として、信念に忠実な画家でした。

企画展

第三回 現代日本具象彫刻展 '89.2.4(土)~2.26(日)

—— 全国から一〇九点の応募 ——

千葉市青葉町の農林水産省畜産試験場跡地につくられている「青葉の森公園」は、面積約53ヘクタール、都市部に残された貴重な自然である。公園内の「彫刻の広場」に親しみやすく優れた具象彫刻作品約20点を全国公募するため昭和60年2月に「第一回現代日本具象彫刻展」を開催したが、今回で一応の最終回となる

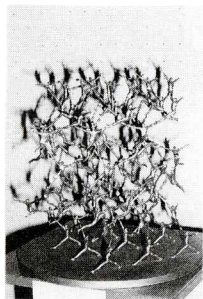
第三回展は、いよいよ2月4日よりオープンする。

より充実した応募作品

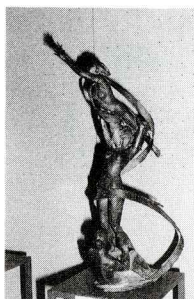
第三回現代日本具象彫刻展の作品公募は、昭和63年7月に発表され、12月3日、4日に作品の搬入が行われた。北は北海道、南は福岡県まで全国18都道府県、そして国外などから前回とほぼ同数の109点が搬入された。今回は第三回

展としての展覧会実績により公募作品全体の質の向上が見られ、充実した内容となった。作品審査は、12月9日(金)、審査員の方々(小川正隆、嘉門安雄、弦田平八郎、富山秀男、中村傳三郎、本間正義、三木多聞)により行われた。応募点数109点のうち、56点が入選、その中から次の6点が大賞に選ばれた。(受付順)

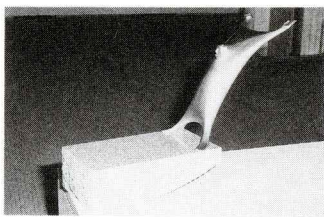
・藤木康成(京都)・古川武彦(東京)・土田隆生(滋賀)・市村緑郎(埼玉)・後藤良二(神奈川)・小寺真知子(在イタリア)
入選者は次のとおりである。
▽山下清(愛知)▽岡弘(東京)▽辻忍(神奈川)▽松本光司(愛知)▽山川玲子(大阪)▽岡本鍬二(茨城)▽堀信二(大阪)▽葉栗剛(愛知)▽南部治夫(埼玉)▽佐野文夫(埼玉)▽梶本良衛(石川)▽長谷川大治



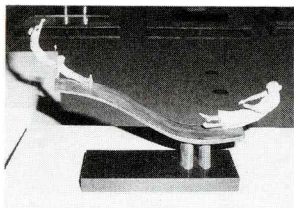
「ねじられたダイヤモンド構造」
後藤良二



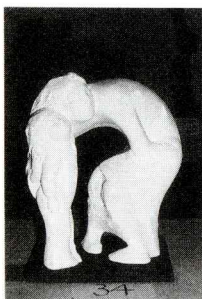
「三つの時代」
小寺真知子



「眩驚」-III 土田隆生



「絆」 古川 武彦



「森の詩」 市村緑郎



「雲人(ファミリー)」
藤木康成

郎(石川)▽高杉邦夫(千葉)▽長嶋栄次(千葉)▽宇野務(神奈川)▽今野勝彦(千葉)▽遠藤幹彦(東京)▽梅原正夫(千葉)▽平戸美和子(千葉)▽村上章一(福岡)▽中川ともみ(京都)▽尾崎真(愛知)▽海老根美奈子(茨城)▽野口信夫(埼玉)▽中嶋登茂美(愛知)▽藤巻秀正(新潟)▽小野雄二(東京)▽深作洋子(神奈川)▽青木三四郎(千葉)▽明地信之(東京)▽大木民郎(北海道)▽堀豊之(千葉)▽中岡慎太郎(千葉)▽佐々木実(埼玉)▽会田富二男(神奈川)▽別府博文(神奈川)▽小澤悟(和歌山)▽北郷悟(千葉)▽西村文男(埼玉)▽石橋亘(千葉)▽岡村昭(埼玉)▽船田正廣(千葉)▽中野滋(神奈川)▽原口潔(愛知)▽富長敦也(大阪)▽牧田裕次(埼玉)▽宮内聰思(山梨)▽松本雄治(神奈川)▽播間公次(大阪)▽檜原北悠(北海道)――受付順――
なお招待作家(淀井敏夫)及び第一・二回展の招待、大賞作家の作品も展示する。
2月11日(祝)には、美術を語る会「私の制作について」(後藤良二)が開催される。

企画展

房総の美術家シリーズ(18)

笹岡了一展

'89・2・14(火)～3・12(日)



「纏 足」



「孟母の家」



「ウィリアム物語」

材の作品は、しかしどちらにもロマンティシズムを内面に秘め、大胆な色面と空間構成による独自の具象世界の中に、繊細な詩情を見るものに

企画展「房総の美術家シリーズ」は今年度で第18回目を迎えました。今回は戦後より流山市に住み、日展参与、光風会常任理事、さらに千葉県美術会会長として活躍した洋画家笹岡了一(明治四十一年昭和六十二)に焦点をあてて開催します。

笹岡了一は明治四十年八月二十三日に新潟県中蒲原郡金津村大字朝日(現新津市)に生まれました。十八歳の時に画家を志し、上京を決定しましたが父の反対に会い、やむなく生活のため検定試験を受けて美術教師の資格を得まし

た。昭和六年第十二回帝国美術院展覧会(帝展)で「三人の少女」が初入選したのを機に上京し、同じ郷土出身の安宅安五郎に師事しました。以後白日会会員となり、画業に専心しましたが、昭和十二年支那事変に参戦、その後第二次大戦で陸軍に数回応召され中国大陸で従軍生活を体験しました。終戦の時、ソ連軍捕虜収容所を脱走、朝鮮半島を経て苦難の末、昭和二十一年帰国しました。この時、北支の極寒と戦争の苛酷な極限状況

の中で、広大な大地の広がりを感じ、また戦争に苦しむ人々に平和を願い、数多くのデッサンを描きました。この体験は笹岡了一の芸術を考える上での一つの大きなポイントとなりました。

帰国後は、妻松子の郷里流山市に移住、アトリエを設け以後ここを制作の拠点として、日展、光風会展を主舞台に活躍しました。初期の作品は「水(晋南戦線所見)」(昭和十七年)や「纏足」(昭和二十一年)など、茶や灰色を基調とした写実的で緻密な描写の作品でした。

昭和二十七年に美術評論家柳亮主宰のJAN絵画研究会(黎明会)が発足しこれに参加します。戦後、シュールレアリスムやキュビズムが日本に入って若手画家に大きな影響を与えており、柳亮は構図法の

研究に取り組み、いわば理論的指導者でした。ここで笹岡は従来の遠近法を越え、新しい具象表現を追求しました。「グリフォンと闘ふ男」(昭和三十年)、「放蕩息子の子の帰宅」(昭和三十五年)、「天使とヤコブの闘い」(昭和五十年)などギリシヤ神話や聖書の世界に題材を求め、意欲的な作品を次々に発表し注目されるようになります。昭和五十三年第十回日展では「ウィリアム物語」で内閣総理大臣賞を受賞しました。

神話やキリスト教世界をテーマとした作品を発表する一方、かつて従軍し苦難の日々を過した中国大陸やそこに住む人々の生活にイメージをはせた「黄土」(昭和三十年)、「孟母の家」(昭和四十八年)、「山西」(昭和五十九年)など一連の作品を制作しました。

一見対照的な題材の作品は、しかしどちらにもロマンティシズムを内面に秘め、大胆な色面と空間構成による独自の具象世界の中に、繊細な詩情を見るものに

第十回美術を語る会

日時 三月四日(土)午後二時
話題 「笹岡了一展に関して」
話題提供者 篠崎輝夫氏(洋画家)

新収蔵作品紹介

昭和63年度に収蔵された作品は次のとおりです。
(平成元年2月1日現在)

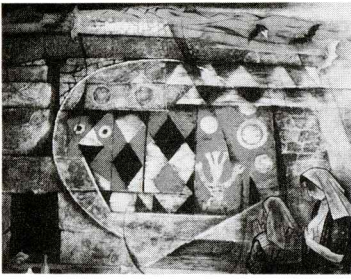
購入

日本画

島田良祐作「乳の祈り(チブサン古墳)」(紙本・着彩 昭52)
西村昭二郎作「新雪」(紙本・着彩 昭59)
黒沢吉蔵作「古郷晩夏」(紙本・着彩 昭63)

洋画

国松桂溪作「仏国トルドンヌ」(麻・油彩 大12頃)
西川純作「保津峡」(麻・油彩)
相田直彦作「清浪」(紙・水彩)
須田国太郎作「風景(漁船)」(紙・水彩)



島田良祐「乳の祈り」
(チブサン古墳)



本郷 新「裸婦」

「デッサン(腰かける裸婦)」
(紙・鉛筆) 他19点

彫刻

本郷新作「裸婦」(ブロンズ 昭27)
菊池一雄作「手を挙げる」(ブロンズ 昭52)

工芸

鹿島一谷作「布目象嵌菱つなぎ文南鐙水指」(彫金 昭56)
関谷四郎作「銅鉄壺」(鍛金 昭49)

蓮田修吾郎作「鐘がなるリュールベック」(鍍金 昭61)
増村益城作「乾漆波文溜塗盛器」(漆芸 昭40)
武田武弘作「ランボーの詩より「朝」」(漆芸 昭50)

寄贈

次の資料を寄贈いただきました。ここに厚くお礼申し上げます。

日本画

杉浦信太郎氏より
横尾芳月作「新春」(紙本・着彩)
渡辺学作「下総の海女」(紙本・着彩)

島田良祐氏より
島田良祐作「海近き村」(紙本・着彩 昭29)

杉原元人氏より
杉原元人作「寂巖」(紙本・着彩 昭62)

洋画

安藤昭子氏より
安藤信哉作「パリの窓」(麻・



鹿島一谷「布目象嵌菱つなぎ文南鐙水指」



石井柏亭「真間の入江(下図)」

浅見蘭秀作「牧水かる堂」(紙・墨 昭62)

研究資料

関いよ氏より
椿貞雄作「桃くり三年、柿八年」(紙・着彩 昭5)

昭和63年度千葉県美術品
取得基金

ジャン・フランソワ・ミレー作

「垣根に沿って草を食む羊」
(麻・油彩 一八六〇頃)

ジャン・パティスト・カミーユ・コロ作「ナポリ近郊の思い出」(麻・油彩 一八六〇〜六五頃)

ギュスターヴ・クールベ作
「眠る人」(麻・油彩 一八五三)

津田永寿氏より
津田信夫作「落花有意」(紙・墨) 他4点
浅見まさ子(蘭秀)氏より

特別展示

昭和63年12月13日から常設収蔵作品展Ⅱ期を開催しています。本展では、浅井忠の水彩画とその周辺の水彩画家の作品に焦点をあてるとともに、新収蔵作品を公開しています。特に、先に収蔵したミレーの「垣根に沿って草を食む羊」のほか、その後収蔵したミレー同様バルビゾン派の代表的作家ジャン・バティスト・カミーユ・コロ（一七九六一八七五）、コンスタン・トロワイヨン（一八一〇—一八六五）、そして写実派の代表的作家ギュスターヴ・クールベ（一八一九—一八七七）等の外国作家の作品を中心とした特別展示を2月26日まで開いています。コロの「ナポリ近郊の思い出」は、銀灰色の柔らかな彩調のうちに詩情を漂わせる彼独特の技法が遺憾無く発揮されています。トロワイヨンの「河辺の道」も、田園風景の中に動物を配して抒情的に描く彼の持味が良く出た作品となっています。クールベの「眠る人」は、身近な人物が飾らずありのままに豊かな技量であらわされてお

り、その徹底した写実態度が見事に具現されています。ぜひ皆様に御鑑賞賜りたいと思います。



コロ「ナポリ近郊の思い出」



クールベ「眠る人」



トロワイヨン「河辺の道」

かたる・つくる

美術講演会

昭和63年度第二回美術講演会は特別展「石井柏亭と近代絵画の歩み」の会期中の9月17日（土）午後2時より本館講堂で行われた。講師は茨城県近代美術館長であり、美術評論家でもある匠秀夫氏を迎え「石井柏亭と近代美術」という演題で行われた。

柏亭の家庭環境、当時の社会情勢や近代美術の動向にもふれ、柏亭の絵画ばかりではなく、詩人、歌人、教育者、編集者、批評家として幅広く活躍した様子など、作品のスタイルをまじえ「人間—柏亭」の生きざまについても言及され大変興味深い講演であった。

美術を語る会

第八回美術を語る会は話題提供者として書家の千代倉樺舟氏を迎え、平成元年1月21日（土）午後2時より、「書—こんなことを知りたい」というテーマで本館研修室で行われ、書を通して人生の生き方にまで示唆を与えられる有意義な話であった。

（美術を語る会・実技講座等）

いあない・団体展

第九回は、現代日本具象彫刻展にちなみ、大賞受賞者の後藤良二氏を話題提供者として迎え「私の制作について」というテーマで2月11日開催の予定。第十回は企画展「笹岡了一展」にちなみ、話題提供者に千葉県美術会理事長の篠崎輝夫氏を迎え「笹岡了一展に関して」というテーマで3月4日開催の予定、時間、会場は第八回と同じ。

美術館研究員会議

今年度第二回の研究員会議は2月下旬に予定している。内容は浅井忠研究資料の解説のまとめと館の普及活動についての調査意見の提出となっている。

美術館協議会

今年度の第二回目の協議会が、柴田敏夫氏の後任として新委員 大高好男氏を迎えて10月7日に開催された。今回の会議では、当館の展示室増築に伴う今後の運営について他、一時間半にわたって協議が行われた。

- 第16回現代書壇代表展・現代書壇巨匠展・千葉書壇秀抜展・千葉書壇新進展
1月18日～1月22日
- 千葉市観光絵画と写真コンクール作品展
1月24日～1月29日
- 第4回書星選抜展
1月24日～1月29日
- 第6回千葉県医師会美術展
1月24日～1月29日
- 第22回千葉県老人クラブ会員作品展
1月24日～1月29日
- 群鷗書人展
1月31日～2月5日
- 第41回千葉県小中高校書初展覧会
1月31日～2月5日
- 昭和63年度千葉市小中養護学校児童生徒書写展覧会
1月31日～2月5日
- 千葉大学教育学部美術科卒業制作展
2月7日～2月12日
- 第22回千葉大学学生書道展
2月7日～2月12日
- 第12回唱和会書展
2月14日～2月19日
- 幕張北高校書道コース卒業制作展
2月14日～2月19日

'88 実技講座をふりかえって

5月より開始した今年度の実技講座は、従来どおり美術館友の会が初心者を対象とした入門講座を実施し、(午前10時～午後4時、年間65日間開催)美術館が経験者を対象として(午後0時30分～4時30分、年間116日間開催)行いました。

年間26期にわたる講座の参加状況は、725名の定員に県内より900名近い受講希望があり各講座とも個性を生かした創作活動が積極的に展開されました。

日本画講座

対象を正確にデッサンすることを中心に、観察と表現について学習した。(10日間)参加者19名、講師・関主税氏。

洋画講座

第1期は水彩画、2・3期は油彩画を実施して、静物、着衣、裸婦、風景(中央港付

近)を実施した。(各期12日間)参加者各28・30・30名、講師・戸田建夫、伊牟田經正、小林数の各氏。



洋画講座

デッサン講座(1)・(2)

自主研修講座、石こう・着衣・裸婦・静物を鉛筆・木炭等で表現し淡彩まで。(各期8日間)参加者各20・28名。

版画講座

銅版23×30、亜鉛板21×30cmを用い、各自自由テーマでアクアチント・ドライポイントなど。(12日間)参加者12名、講師・増田陽一氏。

彫刻講座

たこ石(群馬県産軟石)を素材に、石彫表現の基礎的技法や、用具の取り扱い方の説明の後、石仏、動物などを制作、(10日間)参加者14名、講師・中島幹夫氏。



彫刻講座

陶芸講座(1)・(2)

各期3回の成形・素焼・施釉・焼成という工程で、信楽土、半磁器土等を素材に、花器、食器等を制作した。また後期には上絵付を実施した。(各期10日間)参加者各34・39名、講師・横山光ノ介、上瀧勝治の両氏。

書芸講座(1)・(2)・(3)

近代詩文書・かな・漢字を各期のテーマとして、筆・墨・紙等の説明から、書の歴史、書の見方などを学習した。(各期4日間)参加者各14・29・19名、講師・千代倉桜舟、高木東扇、浅見錦龍の各氏。



書芸講座

情報資料室から

今年度最後の購入図書として次の11冊が入りました。

○画集

版画集を4冊購入しました。一つは米国で成功し、「自由の女神100周年記念」の公式ポスターやオリンピックのポスター等を手がけて活躍中の山形博導の自選画集。軽快でカラッとした作風の影には、作家独特の画面構成法や10版以上の版を重ねるといった努力があると言われます。

次にフンデルトワッサーの全版画作品集。ウィーンに生まれ、シレーやクリムトの影響下に、原色配置と大胆に裝飾化された画面で知られる作者は、親日家でもあり、「百水」の印章を用いて、東京で個展も開いています。

他に、カラルで現代的な木版画で人気の黒崎彰、正統派的銅版画で瞑想的な作風の中林忠良の二人のカタログレゾネが入っています。

洋画の画集では、貧窮者を優れたデッサン力と哀愁に満ちた色彩で描いた鴨居玲の画集がとても印象的です。

○辞典・評論

『世界美術大事典』は、豊

富なカラー図版と細やかな解説があり、画集として観光ガイドとして、また建築の内部構造を学ぶ方にもお勧めできます。

『20世紀の芸術』は、9巻のシリーズで、芸術と大衆・生命・環境等との関連性を探っていくこうとするものです。

『美の諸対談集』の(一)は、評論家の植村鷹千代氏が、美術の第一線で活躍する作家達との対話をまとめたもの。(二)は、同じ分野で活躍する作家達の対談集となっています。

他に、青木繁の生涯を描いた『底なる潮』と『日本西洋画事始め』が入っています。どうぞ御利用ください。

日誌抄

11・12 第七回美術を語る会

(話題提供者)深沢幸雄氏)

11・17 第十二回千葉県移動

美術館(館山市コミ

ユニティセンター、

11・30まで)

12・3 同じく(袖ヶ浦町立

根形公民館、12・14

まで)

1・21 第八回美術を語る会

(話題提供者)千代倉桜舟氏)